

県土整備農林水産委員会・県外視察報告

1 調査日

令和7年8月6日（水）～令和7年8月8日（金）

2 出席委員等

庄司 昌弘 委員長、光澤 智樹 副委員長、大井 陽司 委員、安達 孝彦 委員、
岡崎 信也 委員、奥野 詠子 委員、武田 慎一 委員、宮本 光明 委員
（その他、執行部が参加）

3 調査の概要

○令和7年8月6日（水）

（1）株式会社技研製作所 「RED HILL 1967」

調査項目：インフラ老朽化対策における圧入技術の優位性について

応 対 者：株式会社技研製作所様

内 容：「RED HILL 1967」は「百聞は一見に如かず」をコンセプトに、圧入技術の粋を集めた GIKEN の機械や工法、構造物の「実物」を展示する施設である。

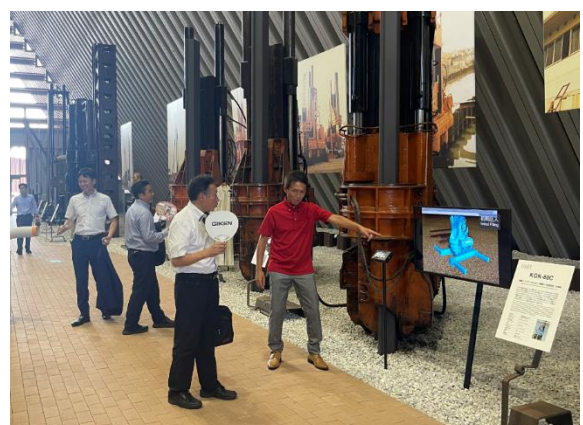
国内外でインフラの老朽化が社会課題となる中、施工が困難な橋台や橋脚基礎の補強、橋梁下における河川護岸の改修といった現場にソリューションを提供する GIKEN 機械の施工事例や技術などについて説明を聞いたあと、展示された機械や構造物の見学を行った。



受入のご挨拶の様子 ↑



施設内見学の様子 ↑



屋外展示の機械説明時の様子

(2) 高知県立牧野植物園

調査項目：植物園の魅力向上・活性化に向けた取組について

応 対 者：高知県牧野記念財団理事長様ほか

内 容：高知県立牧野植物園は、高知が生んだ「植物分類学の父」牧野富太郎博士を記念した植物園である。より自然に近い状態で多様な植物を見ることができ、およそ3,000種類もの植物たちが四季折々の美しい姿を見せてくれている。

2019年に「こんこん山広場」「ふむふむ広場」を新スポットとしてオープンされた。また、2023年5月には、高知県立牧野植物園の磨き上げ整備基本構想に基づく事業の一環として、また「資源植物研究センター」の耐震化に伴い、「植物研究交流センター」をリニューアルオープンされた。

牧野植物園概要と磨き上げ整備事業等について説明を受けた後、実際に園内を見学した。



座学説明時の様子 ↑



園内（こんこん山広場）見学の様子



園内（植物研究交流センター内）見学の様子

←

○令和7年8月7日（木）

（1）AwajiNature Lab & Resort（株）パソナ農援隊

調査項目：循環型農業、6次産業化や農地活用に関する取組について

応 対 者：（株）パソナ農援隊常務執行役員様ほか

内 容：（株）パソナグループは、農業従事者の減少や高齢化の課題を解決し、食の安全と農業収入の拡大を目指されている。パソナ農援隊は03年から活動を始め、11年に法人化された。淡路島では、約3万8000m²の農地で循環型農業を実践されている。

2021年には、自然循環型ガーデン「Awaji Nature Lab&Resort」として、“農・食・住”をテーマにした様々なアクティビティが体感できる施設をオープンされた。

当日は、（株）パソナ農援隊の活動概要について説明を聞いた後、施設内の見学を行った。



座学説明時の様子 ↑



施設内の見学の様子 ↑

←



(2) 中浜下水処理場

調査項目：膜分離活性汚泥法（MBR）と高速ろ過施設について

応 対 者：大阪市建設局東部方面管理事務所様ほか

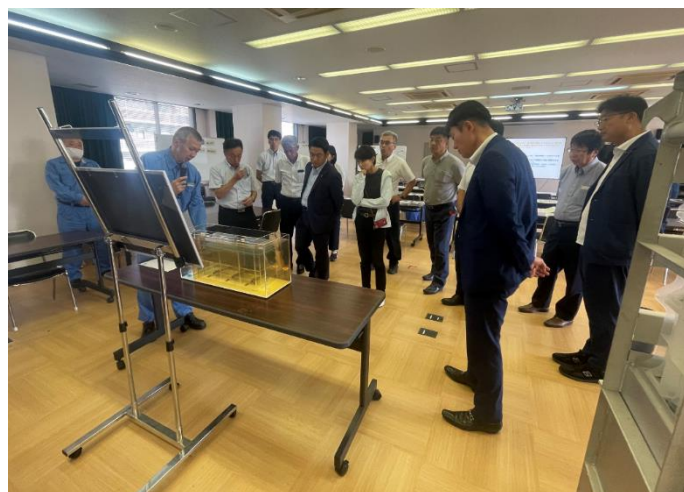
内 容：大阪市中浜下水処理場は、大阪市内に 12 箇所ある処理場の内、3 番目に歴史が古い下水処理場で東池（1960 年通水）と西池（1963 年通水）で構成されている。東池は、通水当初より標準活性汚泥法で下水処理を行っていたが、老朽化が進み、改築更新が必要となっていた。一方で、さらなる合流改善対策（雨天時の汚濁負荷量の削減）や、高度処理化（大阪湾の富栄養化防止のための窒素・リン除去等）といった処理機能の向上も求められていたため、老朽化対策と合わせて、さらなる合流改善対策と高度処理化を図るため、膜分離活性汚泥法（MBR）処理施設と高速ろ過施設を導入し、令和 3 年 10 月より稼働を開始された。

高速ろ過と MBR の組み合わせは、国内で初めての処理システムであり、高速ろ過と MBR の利点を活かして高度処理化と合流式下水道の改善に対応し、これまでの下水処理を超えるきれいな水（超高度処理水）を得ることが可能となったとのこと。

当日は、下水処理場の概要や膜分離活性汚泥法（MBR）と高速ろ過施設の仕組みなどについて、模型なども用いて説明を受けた後、実際に処理場内を見学した。



座学説明時の様子 ↑



模型を用いて説明を受けている様子 ↑



処理場内見学の様子

←

○令和7年8月8日（金）

（1）岡山市役所及びハレまち通り

調査項目：ハレまち通り（旧県庁通り）歩いて楽しい道路空間創出事業について

応 対 者：岡山市都市整備局都市・交通部 庭園都市推進課様ほか

内 容：岡山市は「車中心」から「人優先」の安全で快適な「歩いて楽しい」道路空間の創出と、幅広い年代・多種多様な方が魅力とを感じる空間の創出を目的に県庁通り歩いて楽しい道路空間創出事業を実施している。

県庁通りについて、車道を1車線化する交通社会実験を皮切りに、計画段階から沿道事業者等を巻き込み再整備のデザイン等を反映された。また、拡幅した歩道空間の利活用を想定した社会実験の実施や、あらかじめ活用できるエリアを明確にした歩道デザインを整備しハレまち通りとして、令和4年3月31日に完成した。

当日は、ハレまち通り（旧県庁通り）歩いて楽しい道路空間創出事業について説明をお聞きして、質疑応答ののち、実際の通りを歩いて見学した。



説明時の様子 ↑



見学の様子 ↑

←